

補習校便り

2015年度第2号 2015年5月16日発行 チューリッヒ日本人学校日本語補習校

ホームページ www.jszurich.ch

入学おめでとう

校長 大久保 芳子

4月11日、学校運営委員会より浅野真様、辻勝久様、全日制校長鈴木史良様、保護者の皆様にご列席を賜り、入学式を行うことができました。スイスに住んでいても、お子様の中の「日本」を育てていこうと決心された保護者の皆様、お子様に大きな贈り物をされるわけです。子どもたちの中の「日本」という個性が、その成長とともに大きく伸びて、より豊かなものになるように、私たち教員と毎日、毎週を繰り返してください。

新小学一年生の「学びへの意欲、勉強を始めたときのすてきな気持ち」をそのまま育てていってやりたいと思います。そのためにも、私たち大人は「頭や体や心を動かすのは、すてきなことだ。楽しいことだ。」という合図を、子どもたちにしっかりと送ってやりましょう。

宿題をして、音読をして、という単純であるのに大変な繰り返し、子どもたちの国語を育てていきます。お子様を毎日15分間引き留めて、一緒に国語と向き合ってください。学力を伸ばすには、毎日コツコツ短時間集中する体験を積み重ねることが大切です。授業が分からなくなると、楽しくなくなります。同時に、楽しさは小さな努力を継続しないと持続できません。

さて、4月18日に絵本作家の「いわむら かずお」氏をお迎えし、講話会を開きました。本は、執筆者がいちばん上手に読まれると言いますが、短い絵本を、全身を使って読まれる岩村氏の姿に心を揺り動かされました。ちょっとした体の動き、口の動き、それに伴って発せられる声、ただただ感心させられるばかりでした。子どもたちはもちろん大喜びでした。

質疑応答の時間には次々と手が挙がりました。岩村氏は子どもたちとのやりとりを楽しまれ、子どもたちが笑い転げる姿を喜ばれ、「来てよかったです。」と心からおっしゃってくださいました。「日本にいる子たちより感受性に優れていますね。教育が違うのでしょうか。」と褒めてくださり、学校環境についてもいろいろと質問をされました。

子どもたちは周りの自然をととてもよく観察していて、そのことにいちばん驚かれ、喜ばれていました。岩村氏が子どもたちに望まれることはまさしくそれだったようです。

現在の教育は、記憶力による判定に重きを置き過ぎだと思います。記憶力は判定しやすく、想像力、創造力、感受性は判定しにくいから削除しているという傾向のままです。しかし、自分を見つめ、人生を味わい、幸福を知る能力は感受性によるところが大きいのです。生きていて幸せになるために大切な能力は、想像力、創造力、そして何よりも感受性だと、私は思っています。

国際人としての姿勢を感覚で取り入れ、体で表現できる補習校の子どもたち。

二つの文化の中で、観察すること、疑問を持つこと、立ち止まって考えることを身につけている子どもたち。未来がみんなを楽しみにして待っている気がします。





ゼクセロイテン・キンダーパレード
《ジャパン・クラブ・チューリッヒ、チューリッヒ商工会議所共催》
～補習校の子どもたちも参加！～

チューリッヒの春をつげる祭り「ゼクセロイテン」に先立って行われるキンダーパレード。全日制の子どもたちといっしょに補習校の子どもたちも法被や着物姿で参加しました。昨年の日本・スイス国交樹立150周年記念のお祝いとして、商工会議所のご寄付により新しい装いに生まれ変わった馬車とともに練り歩きました。



初夏を思わせる晴天の下、みんなは手に日の丸の旗を持ち、飴を配りながら、力強い太鼓のリズムによって元気よくチューリッヒの街を行進しました。今年も補習校有志の子どもたちは全日制の子どもたちと一緒に思い切り太鼓をたたきました。日本人会、日本人商工会議所の皆様を始め、全日制の先生方、本当にお世話になりました。心よりお礼を申し上げます。

「いわむらかずお氏絵本の読み聞かせと絵本の世界の語り」実施

運営委員会の支援をいただき、4月18日午後1時から2時まで「14ひきシリーズ」でお馴染みの絵本作家いわむらかずお氏をお迎えし、「絵本の読み聞かせと講話会」を実施することができました。開場前から多くの児童生徒たちが体育館の前に集まっていて、この日の読み聞かせ会を楽しみに待っていた様子がうかがえました。

当日、いわむら氏は奥さまとエージェントのご夫妻とともに来校されました。

最初に、いわむら氏が大学時代に子どもの歌番組で絵を描くバイトをしたことがきっかけで、31歳から絵本作りを始められたこと、また、絵を描くときの手順、一枚を描くのに短くて三日、長くて一週間かかることを話してくださいました。「なぜ登場人物はねずみが多いのか」という質問には、「大きな森の小さな自然が魅力的だと思い、小さな自然をよく見て、クローズアップして描きたかった。そのため、主人公は小さい方がいいと思い、親指ほどの大きさのヒメネズミを登場させている。」と答えられ、その回答に、どの児童生徒たちも感銘を受けていました。

待ちに待った絵本の読み聞かせでは、『りんごがひとつ』と『もりのあかちゃん』を登場人物になりきって表情豊かに読んでくださいました。子どもたちは、いわむら氏のユーモアあふれるお話の世界に引き込まれ、笑ったり、身を乗り出したりして聞いていました。

「絵本に出てくる森はどこなのか」という質問には、「よく観察している森は、栃木県益子町の森だけれども、よく見ること（観察）が大事で、読者の心の中にある森を、読者自身が見つけてほしい」と締めくくられました。

子どもは、いろいろな才能をもっていてすばらしいと思っているとおっしゃり、絵本作家になったもう一つのきっかけが「子どもが大好きだったから」と語られたお人柄、温かいまなざしが会場を包みこみ、終始和やかに講話会が行われました。

子どもの感想から

- ・土曜日に日本人学校の体いくかんで岩村先生が、動物の声をかえて絵本を読んてくれました。ぼくは、本を読むときに、どのように読むのがよいのか、どんな声で読むのがよいのかがわかりました。(小3 M)
- ・かずお氏は、日ごろの細かい観察が絵本作りにつながる、とおっしゃっていました。そのため、かずお氏は、よく森の中などの自然の多い所で絵本を作られるそうです。そうすると、動物たちの細かな動きが観察できるからだと思います。だから、ぼくも日ごろから根気よく物事をやって、細かなことにも注意していきたいです。(小6 I)
- ・すごいなと思ったことがあります。冬のお話の絵をかいていて、いつの間にか夏になってしまい、冬のイメージができなくなってしまったとき、いわむらさんは、バケツに冷たい水を入れて、足を入れながら冬をイメージしました。ぼくにとって、とても興味ある講話会でした。(小6 U)
- ・私は、いわむら氏はとてもきれいな絵を描いていると思います。絵本の字が読めない子でも内容がわかります。質問ができて、絵本を読んでもらって、とてもよかったと思いました。(小6 S)
- ・「なぜ登場人物がねずみなのか。」「なぜ洋服を着ているのか。」という質問がありました。いわむら氏は、自然の中で生きるいちばん小さな動物をテーマにしたかったから、また、洋服に関しては、人間のように服を着せて見分けをつけるためにおっしゃいました。確かにそのとおりだな、と思いました。(小6 K)
- ・いわむらかずお氏のやさしい口調とおもしろい話にどんどん引き込まれていきました。特に感動したのは本読みでした。おもしろくて楽しくて、思わず笑ってしまいました。「さすが、生みの親はちがうな。」と思いました。「十四匹のねずみたち」がきつといるにちがいないこのスイスの自然をぼくたちも大事にしようと思いました。(小6 Y)
- ・先生はすごく優しくて、子どもといっしょに笑っていたので、子どもが好きそうでした。ぼくも、いっぱい笑いました。子どもが好きなので、ぼくもいわむら先生みたいになりたいです。(中2 O)
- ・小さい子どもたちの笑い声が聞こえて、楽しいんだなあと思いました。読んでくれた本は私もおもしろいと思いました。(中2 H)



漢字総復習試験実施

国語学習の基礎である漢字を定着させるため、毎年始業日に行います。70点以上が合格です。5月16日に答案を返しますが、まちがえたところを家で直して、担任の先生に出してください。合格者のみなさん、おめでとう。合格証をお渡しします。残念ながら試験を受けられなかった人、不合格だった人は夏休みの後にもう一度チャンスがあります。6月に申し込んでください。

～運動会のご案内～

- ◇ 実施日：6月7日(日) 雨天決行
集合時間：9：00 (競技は9：30～15：50予定)
- ◇ 雨天の場合は陸上競技場隣接の市立体育館にて行います。6月6日土曜日の授業はありません。
- ◇ 場所：ウスター市陸上競技場

チーム対抗リレーに関するお知らせ

チーム対抗リレー(大人)の参加チームを募集しています。参加ご希望の方(チーム)は事前の申込を受け付けています。学校に申込用紙を用意しております。申込書は5月22日(金)までにご提出(FAXでも可)をお願いします。FAX 044-941-6353

運動会での注意事項

- 1 運動会の競技は、運動靴を履いて参加のこと。危険防止のため裸足の出場は認めません。
雨天の場合は、体育館用の靴を忘れないようにご用意ください。
- 2 本校の児童生徒は、必ず頭にはちまきをしてください。入賞しても、頭にはちまきをしていなければチームの得点になりません。
- 3 競技以外の応援などのために、コースやフィールド内には絶対入らないでください。
小さいお子様がよくフィールド内で遊んでいますので、注意してください。
また、競技場にある運動器具を使って遊ばないでください。
保護者の皆さん、お子様への注意をお願いします。
- 4 ごみのお持ち帰りにご協力ください。
- 5 閉会式の終了後の後片付けにご協力いただければ幸いです。
- 6 競技場に犬を連れ込むことは禁止されています。
- 7 全日制、補習校に通っていないお子様の飛び入り参加につきましては、「団体競技の得点種目」以外の種目への参加となります。
- 8 5月19日以降に出席と伝えられた場合、赤白対抗リレー(4年生以上)には出場できませんので、ご了承ください。
- 9 運動会当日、やむを得ず早退する場合は、担任、もしくは教頭に伝えるようにしてください。

学校の決まり

- ・学校内、ガムは禁止です。校舎に入る前にゴミ箱に捨ててください。
- ・学校内の施設を授業以外で使う場合は、使った椅子を元に戻すなど後片付けをしてください。

保護者の皆様方に



お礼

- ・ボランティアに登録して下さった保護者の皆様、ありがとうございました。
- ・あちらこちら、私たち教員の気づかないところで助けてくださっている保護者の皆様、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

お願い

- ・土曜日になっての欠席の連絡は、電話にてお願いします。
- ・引っ越しや進学などによる個表の情報変更だけでなく、メールアドレス変更の場合も、**個表を新たに書いて提出してください。**
- ・補習校、もしくは教員に対しご要望、ご意見がございましたら、直接大久保にお電話をくださるか、または補習校宛にEメールをください。hoshukoz@hotmail.com
面談もいたします。教室か職員室にありますので、声をかけてください。

校長

「補習校の教育活動についてのアンケート」質問と回答

質問：「午前の2クラスの間が短く、読み聞かせをする時間が取れません。」

答：読み聞かせには空き教室を使っています。空き教室につきましては、担任あるいは、学校に問い合わせてください。できるだけ読み聞かせ活動をしていただけるように配慮したいと考えています。



新任教員自己紹介

中学部2年2組 高等部 T

もし2011年の東日本大震災がなければ、私とドイツ人の夫はまだ東京に暮らしていたかもしれません。そう思うと、人生は不思議な巡り合わせで成り立っている気がします。この度、素敵な「ご縁」があって、補習校に勤務できて幸せです。

私の出身は千葉県です。高校の授業で習った源氏物語が好きになり、短期大学の国文科へ進みました。卒業後は、母校の高等部で司書教諭として働きました。すると今度はヘルマン・ヘッセが気になり、大学の通信教育過程を利用し、働きながらドイツ文学部を卒業しました。その後職を変え、司書教諭から不動産会社・銀行と、まったく違った世界を経験しました。いずれの仕事も、さまざまな事が学べ、就いてよかったと思います。

私には残念ながら子どもがいませんが、すべての大人は、子どもの教育に責任があると思っています。だから補習校の生徒は、自分の子どもだと思って授業に臨んでいます。子どもたちは自身の内に、計り知れないほどの宝石を持っています。私の仕事はその宝石を発見し、掘り出すことと思っています。補習校ですばらしい宝石を発見できるのを楽しみにしています。

小学部2年2組 3年3組 M

今年度よりチューリッヒ日本人学校補習校で勤務させていただいております、Mと申します。小学部2年2組と小学部3年3組を受け持っております。

私も、今から数十年前のことになりますが、タイのバンコクで日本人学校小学部を卒業しました。帰国後も当時の仲間から多くの刺激を受けて、大学では外国語学部で言語学を学び、日本で会社員、塾講師などを経験した後、英国の大学院では東洋学部で学び、そこで日本語学科の学生に日本語を教えておりました。

それからスイスに来て出産し、子育てに奮闘しているうちに、あっという間に8年が過ぎました。この度、みなさんといっしょに学べる機会が得られたことを、うれしく思っております。

スイスの学校や習い事との両立は、決して易しいことではないと思います。私も、児童生徒や保護者の皆様といっしょに、その苦労を分かち合い、絶えず学び続けてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

小学部5年1組 2組 T

この度5年1組、2組を担当することになりました。右も左もわからない状態で担任になり、環境に慣れようと手探りで試行錯誤している毎日です。

音楽教員の資格は取っていますが、全く違う分野での指導になりますので、子どもや保護者の方たちにご迷惑をおかけするかと思いますが、子どもたちと一緒に日本語の楽しさ、美しさを発見しながら成長していけたらと思っています。

まだまだ力不足ではございますが、日本語が楽しいと子どもたちが思える授業を目指し日々精進してまいります。よろしく願いいたします。